

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 59

2026 年 09 月 29 日（火）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

巻頭言

地球温暖化を若者の政治参加で止めなければ！

草野篤子（白梅学園大学名誉教授）

私は 2018 年 9 月にスウェーデンの総選挙の取材にストックホルムを訪ねましたが、その時に、環境活動家グレタ・トゥーンベリさんと、クラスメートたちに出会いました。スウェーデンの 16 歳の環境活動家グレタさんたちは、「温暖化防止は国境や大陸を超えた闘い、これ以上待つのは止めて、いま行動しよう」と訴え、長期に渡り、毎週金曜日には授業に出席せずに、ストックホルムの国会議事堂前に座り込み、気候危機の影響を受けるのは、若者世代だと主張していました。グレタさんの行動は、SNS で世界中に拡散して、「地球を守る」学校ストライキが数多くの国々に波及しています。学校では政治をどのように扱うべきでしょうか？

日本では長らく、学校で政治的な話題を扱うことに慎重な姿勢が続いてきましたが、2016 年から日本でも 18 歳選挙権の実現によってその重要性が再認識されるようになりました。

日本とドイツ、それぞれ異なる歴史的背景のもと、シティズンシップ教育を発展させてきた両国での経験を元に、教師と高校生を交えた対話を通じて「民主主義を守るために、今どのような教育が必要か」という集まりが、3 月 7 日（土）に小玉

重夫白梅学園大学・白梅学園 短期大学 学長、クリスティアン・ヨハン ヨーロピアン・アカデミー・ベルリン 理事長、ゲルノート・ヴォルフラム マクロメディア大学教授/ 連邦政治教育センター特別顧問そして高校教諭、高校生が集い民主主義の未来について熱っぽく話し合われました。主催者は、白梅学園大学子ども学研究所、Vote at Chuo!!（中央大学主権者教育サークル）で、ゲーテ・インスティテュート東京にて開催されました。

若者の政治参加を！「未成年者選挙運動訴訟」と「立候補年齢引き下げ訴訟」を知っていますか。若者が投票に行っても候補者には同年代の顔はありません。日本の立候補年齢は、戦後からずっと変わらず 25 歳、30 歳なのです。OECD 38 か国のうち 23 か国は立候補年齢を 18 歳に、10 か国は 21 歳。ドイツは 1974 年に 25 歳から、イギリスは 2006 年に 21 歳から、フランスでは 2011 年に 23 歳から、それぞれ 18 歳に立候補年齢を引き下げました。若者が政治に参加することで、自分たちの問題を、当事者として解決に取り組むことはとても重要です。これからの社会を考えるためにも、政治にかかわる若い担い手は欠かせません。

今年の「選挙改革フォーラム」（11 月 20 日（金）東京ボランティアセンター及びオンラインで開催）では、若者の政治参加の大きな課題をよく知るために、立候補年齢引き下げ訴訟原告の中村涼夏さんと、未成年者選挙運動訴訟について角谷樹環さんにお話を伺います。北海道出身の角谷樹環さんは、気候変動をテーマに 15 歳から市民運動に関わ

小平西地区地域ネットワークって何？

2012 年 3 月 17 日に白梅学園大学関係者が様々な NPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加しませんか？

ってきています。環境問題のような社会全体の取り組みが必要な課題も、日本では若者が選挙時に危機感をもって訴えようとしても、政治活動になると禁止されている現状があります。この二つの

訴訟について取り組んでいるのが戸田善恭団長はじめLEDGEの弁護団です。この二つの訴訟について関心を持ち、話を聞き、みんなで話し合いましょう。

「みんなであそんで夏のあつさをふっとばそう！ 夏休みスペシャル」

ーあそぼうかい&世代間交流広場開催ー

小林彩音(白梅学園大学子ども学科1年)

2026年7月11日に、白梅学園大学・短期大学構内にて「あそぼうかい&世代間交流広場」を開催しました。

今回のテーマは「みんなであそんで夏のあつさをふっとばそう！夏休みスペシャル」と題しまして、夏休みにちなんだコーナーや装飾を作り、年齢の垣根を超えて関わりあえる会を作り上げました。



た。

また、今回は前回の「うけつけ」「あそび」「せいさく」「ホッとスペース」「おわりのつどい」「なんでもつながり相談コーナー」の六つのコーナーから、「あそび」と「おわりのつどい」を合体させ「あそびのつどい」を作り、全5コーナーで参加者さんと交流しました。あそぼうかい&世代間交流広場を通して、私たちに何ができるのかを改めて考えることができました。

「うけつけ」では、海を連想させる三種類の名札を準備し、参加者さんを迎えました。J棟の入り口から、夏満載の豪華な装飾も作ったり、本物のクワガタを展示したりして参加者さんたちにワクワクしてもらえるような空間を作り上げることができました。

「せいさく」では、金魚のけん玉とヨーヨーの製作を行いました。夏といえば、お祭りのイメージがあると思います。そこで、お祭りの定番の金魚すくいとヨーヨー釣りから連想させ、参加者さんの個性溢れる金魚のけん玉とヨーヨーを作り、作って遊んで楽しい時間となりました。

「ホッとスペース」では、花火大会をテーマにちぎり絵で花火作り、打ち上げみんなで大盛り上がりしました。また、花火大会には欠かせない食べ物の塗り絵なども行い、ホッと一息つきながらも、学生と子どもが関わりあえる素敵な空間が広がっていました。

「あそびのつどい」では、山 vs 海をテーマに海の生き物を探すゲームや山をイメージした迷路など、ユニークで面白い企画を実施しました。みんなが集まって楽しめる企画として、海と山どっちでしようクイズ大会を開催し、大いに盛り上がり



ました。

「なんでもつながり相談コーナー」では、けやきの森のCSWさんを迎え、あそぼうかい&世代間交流広場を通じて、人と人をつなげる活動に取り組むことができました。前回よりも多くの方に利

用していただきました。協力してくださった、すべての方に感謝を申し上げます。

今回のあそぼうかい&世代間交流広場、5月あそぼうかいに引き続き前年度を超える参加者さんを迎え、大盛況に終えることができました。一年生

が主体として行う初めてのあそぼうかいですが、一人一人が熱心に活動していたのが印象的です。今後もあそぼうかい&世代間交流広場ができることについて考え、11月28日に行われる11月あそぼうかいに向けて頑張っていこうと思います。

非認知能力を育てる清修の鉄道模型

中澤亜紀（白梅学園清修中高一貫校教員）



全国高等学校鉄道模型コンテスト2025」のモジュール部門と1畳レイアウト部門において、前年に続き、2部門で最優秀賞を受賞しました。今年もモジュール部門で最優秀賞を受賞した副賞として、ドイツのシュトゥットガルトで開催された「ヨーロッパアンスケールコンベンション」に招待していただき、世界大会に参加しました。

2024年度は惜しくも2位だったので、2025年度こそ1位を目指し、配布するリーフレットを事前に作成するなどして、準備万端で挑みました。13カ国20チーム以上が出店する世界のモジュールは、

今年も圧巻。スケールが壮大で技術、ギミック共に素晴らしいものばかりでした。

世界という大舞台における清修生の武器は、長年培ってきたレジリエンス（経験や習慣で育てられる能力）。中でも生徒たちが醸し出す雰囲気はピカイチで、聞いてみようかなと来場者の心をグッと掴む姿は脱帽でした。

多くの経験を重ねてきた生徒たちは、英語とドイツ語でプレゼンを繰り返し、作品の魅力を来場者に伝え続けました。結果は、念願の最優秀賞。鉄道模型の制作を通して培った能力や経験は、これから長い人生を生き抜く中で重要な財産となることでしょう。

紅葉をモチーフにした清修の作品は一際目立っていたものの、海外の方との会話で知った衝撃的な事実がありました。それは、日光の紅葉やいろは坂、華厳の滝があまり認知されていないということ。こんなに素晴らしい日本の景色が、まだ世界に知られ切っていないということを知った2回目のドイツ遠征となりました。

「好き」をカタチに

一つくるでつながるワークショップー

青尾咲季（白梅学園清修中高一貫校生徒）

7月19日、小川一丁目児童館で「つくるでつながるプロジェクト」のワークショップを開催しました。小学生7名が参加し、風景ジオラマの制作に取り組みました。今回完成した作品には、子どもたちの個性がたくさん詰まっていま

した。おじいちゃんと雪だるまを作った思い出の公園、毎日自転車を通る鷹の街道や玉川上水、大好きな電車や猫など、身近な思い出や「好き」がジオラマの中に表現されていました。

このプロジェクトを始めたきっかけは、これまでジオラマづくりを教える活動を通して、子どもたちがものづくりに夢中になる姿を見てきたことです。一方で、家庭環境などによって、子どもたちの「体験する機会」に差が生まれていることに問題意識を持つようになりました。そこで、誰もが気軽にものづくりを体験できる場をつくりたいと考え、今回の企画を立ち上げました。



このプロジェクトは、小平市、株式会社カト一、小川一丁目児童館、瀧口優先生、白梅学園、そしてクラウドファンディングを通してご支援くださった皆さまのご協力によって、開催することができました。多くの方々に支えてい

ただいたからこそ、子どもたちにこのような貴重な体験を届けることができました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

今回の活動を通して、ものづくりは単に作品を完成させるだけでなく、自分の思いを表現し、新しい自分を発見するきっかけになるのだと改めて感じました。今後も、一人でも多くの子どもたちが「やってみたい」と思ったときに、その体験を選べる環境をつくっていきたい



と思います。「つくる」ことを通して、人と人、心と心がつながる。そんな場をこれからも広げていきたいです。

「人生 100 年－元気・時には暴走」

佐々木 剛

私は、いま、ある街で白梅学園大学大学院修士課程修了者として、子どもやその保護者を支える仕事をしています。それら子どもとその保護者の関係で、以前とは少し違ってきているのではないかと感じるケースがあります。今日は、その話を紹介することで、「小平西地区地域ネットワークにつながる皆さん」は、どのように考え、今後自身のつながりを保つのか考えていただければと思います。

これまで、考えられてきた「困難事例」では、当事者である本人への寄り添いや、悩みを分かち合う関係者へのバトンタッチが一般的な支援でした。

最近、違ってきているなと思えるケースには、当事者内の家族的な関係がどこかでこじれてしまっている。もしくは、ねじられた状態から複雑化していると思われるものです。

当然のこととして、守秘義務がありますので、それぞれの詳しい話は、申し挙げられないのですが、祖父・祖母とその子ども、そしてその孫という構

造を描いて見てください。祖父・祖母にとって孫は可愛いものです。この孫育ての構造は、「祖父母が協力をして、自身の子どもである父親や母親を支える」とする見方が一般的で、誰しもが「当然のこと」と考えてしまいます。ところが、その可愛さが勢い余って、保護者を飛び越えて学校など教育の場に苦情や注文をする「元気な高齢者」がでてきているのです。また、「お前達の育て方がおかしい」として、子どもとその保護者の間を遮断してしまうという極端なケースも見られてきているのです。

これは、この「街」特有の環境かもしれません。これらの背景を見ていくと、暴走している方は「街のなかのつながり」が少ないようで、周囲の声に耳を傾けることが少ないという声も聞こえてきます。

私は、これまで「小平西地区地域ネットワーク」の活動を近くで見せていただいております。白梅学園大学で地域支援論や家族関係論、そして、世代間交

流学等知ることが出来ました。また、白梅学園の特色として、保育学も学ぶことができ、人間の発達を「子ども学」という全体領域の中で学びました。人生 100 年が当然の今日となりました。身近に「元気な高齢者」が多く見られるなか、この少し

暴走気味の高齢者とどのように関わることが、保護者とその子どもを支えることとなるのか。それが、悩みであり、課題でもあります。

鷹の台タッタカフェスタと津田梅子朗読会

<津田塾祭応援イベント>

岩井 洋

来る10月17日(土)、18日(日)、津田塾大学小平キャンパスにおいて「第67回津田塾祭」が行われます。これと日程を同じくして、鷹の台駅東側の小平中央公園噴水池まえ広場で、津田塾祭応援イベント「第5回鷹の台タッタカフェスタ」が開催されます。地域と大学とが一体となって楽しめるお祭りで、鷹の台の子どもから大人まで、みんなでつながるマルシェイベントです。



キッチンカーも出ます。ふろしき市やリサイクルショップ、アクセサリー販売、オリジナルクッキーなどの出店も出ます。またジャブジャブ池ステージでは二日間にわたり、たくさんのアーティストが目の前で生演奏を繰り

広げます。飲食しながらの音楽鑑賞も楽しいですよ。

公園入口そばの特設リングでは、元ウエルター級チャンピオン坂本大輔さん指導による「ボクシング体験」ができます。また南側の草地では、最近話題のニューススポーツ「モルック」が体験でき

ます。また体育館裏の雑木林では、子どもたちが外遊びできる「プレーパーク」が行われます。プレーパークは、子どもが自ら「遊び」をつくる遊び場で、生きる力を育む場でもあります。

また場所は離れますが、津田公民館では津田梅子の朗読会が行われます。

10月18日(日) 14:30~16:30 (開場 14:00)

「津田梅子に親しむひととき」 ~アイリッシュハーブと朗読の集い~、



明治期に女子教育の道を切り開いた津田梅子。彼女が残した言葉や記録を朗読しながら、その生涯に息づく思いを静かにたどりま。津田梅子の世界に触れてみたい方、朗読を楽しみたい方、アイリッシュハーブの美しい音色とフォルムを鑑賞したい方、どなたでもご参加いただけます。お礼にもなった小平ゆかりの偉人について、この機会に接してみたい方はいかがでしょうか？

みなさまぜひお気軽にご参加ください！
いっしょに秋の鷹の台を盛り上げましょう！

第65回社会教育研究全国集会のお礼

細江卓朗(小平西ネット地域世話人)

8月1日、2日に社会教育研究全国集会を白梅学園大学・同短期大学(以下白梅学園大学)で開

催しました。森山先生が実行委員長、私が副実行委員長に就任して欲しいとのお話がありました。

全国から大勢の関係者の方が集まり、白梅学園大学や小平市の市民活動を知って頂き、また全国の同様な活動を知る良い機会と考え、お引き受けしました。

自分なりに果たす役割として、小林市長への来賓挨拶依頼、例年オープニングでは、開催地の民族芸能などを披露するとの事で、鈴木囃子への出演依頼し、どちらも快諾して頂きました。鈴木囃子は、お面を被った踊り子が音楽に合わせて練り歩き会場の雰囲気が一気に明るくなりました。



次に5つの課題別学習会や18の分科会への小平で活躍しているNPOや活動団体への働きかけを行いました。

学習会4の高校生が地域へ！学びの場ってどう作る？では、小平市中央公民館で市内の5校が参加

する高校生事業企画委員会（ココプロ）があることを紹介し、小平市中央公民館の西村様や白梅高校、清修一貫部、創価高校、錦城高校等が活動報告をして、高校生の参加者86名に加えて、大勢の来場者で会場がほぼ満席になりました。

第4分科会では、フードバンク小平の三富様に、第5分科会では、けやき青年教室の活動を小平市中央公民館の西村様に、第8分科会では、外国人労働者・難民と共に歩む会BONDの能松様に、第11分科会では、移動式子供食堂カモミールの田中様に、第13分科会では、小平図書館友の会の伊藤様に発表して頂きました。



発表して下さった方々からは、貴重な経験をさせて頂いた、同様の活動を聞き参考になったなどの言葉を頂きました。

小平市内や全国から集まった600名もの来場者と発表者との交流が、今後の小平市や近隣の市における社会教育の底上げに大いに役立った大会だったと感じました。

小平市中央公民館「けやき青年教室」のご紹介 西村京香（小平市中央公民館）

小平市中央公民館で実施している障がい者青年学級「けやき青年教室」は、約52年の歴史をもつ公民館事業です。市内在住で義務教育を修了した軽度の知的障がいのある「受講者」を対象に、4月から翌年3月までの1年間、ほぼ毎月1~2回（土・日曜の午前）集まり、様々な学習活動を行っています。

本活動の大きな特徴は、受講者と一般市民のボランティアが共に活動し、交流を深めている点です。ボランティアは、受講者と同じ作業や活動を共にしながら、お互いを理解し合う大切な存在となっています。

プログラムは、体を動かすレクリエーション、工作、調理、歌など、職員や地域住民の特技を活かした手作りの内容です。ボランティアには、福祉関係者だけでなく、音楽や写真が得意な方、20年以上の経験をもつベテランなど様々な強みをも

つ方が揃っています。年2回の意見交換会を通じてその強みを持ち寄り、プログラムの質を日々高めています。

また、地域社会とのつながりも大切にしています。武蔵野美術大学の学生と連携して「障がい者作品展」へ作品を出展したり、「みんなでつくる音楽祭 in こだいら」で合唱を披露したり、地域の方々に活動を知ってもらう機会を設けています。さらに、一大イベントであるバスツアーや冬の餅つきには家族も参加でき、日々の支え手であるご家族が地域とつながる場にもなっています。

受講者が多様な活動を通じて地域とつながり、お互いに学びを深めることは、貴重な社会勉強や地域学習の機会となります。中央公民館では、障がい者の生涯学習活動の推進を目指し、これからも地域と連携しながらこの歩みを続けてまいります。

アウシュビッツは決して過去のことではない

金田利子

◆OMEP（世界幼児教育・保育機構）とアウシュビッツを目指しポーランドへ

7 月の中旬に、前から 30 年間関わり続けて、こしばらく参加していなかった OMEP の世界大会（於ポーランド・ポズナン市）に思い切って参加した。テーマは、「子どもが語る時…教育と子どもの権利へのコルチャックのインスピレーション」というテーマで、コルチャックの哲学と子どもの権利を核心に据えたものであった。子どもは「将来のおとな」ではなく現在の「市民」であることが強調された。子どもの権利条約も第2次世界大戦中最も多くの子どもの犠牲になったこの国からの提案により、国連で取り上げ、討論が重ねられ 10 年の歳月の準備を経て世界で初めての、世界共通の「国連・子どもの権利条約」が 1989 年 11 月 20 日に採択された。

そうした点から OMEP 大会に行くなら今年だと思い、特にアウシュビッツ（同国クラクフ市）も訪ねたいと思った。諸事情で完全にはみられなかったが、その時の状況が如何に非人間的かを実感することが出来た。ではこれはヒトラーだけが、悪かったのだろうか？そこには彼をそうさせた構造があった。

◆保育合研の三上智恵氏（映画監督・ジャーナリスト）講演「私たちに戦争をやめる力はあるのか？」

現政権はますます戦争に近づいている。いいえ、戦争はもう始まっている。準備態勢は着々と進んでいる。三上講演はそこから始まった。このことをテーマに製作した映画を見て帰る人の感想の大方は「沖縄は大変ですね」と言い合っている。監督としてがっかりする。大変なのは沖縄だけではなく、世界は東西（時に南北）の闘いになり、日本全土がウクライナと同じ立場になる。ウクライナを NATO が助け武器を送れば闘いはますます激しくなる。闘いの本命はウクライナではなく大同

士であれば、ウクライナは市民も犠牲になる戦場と化さざるを得ない。台湾付近から近い日本は大国の戦いの中間地点にあり、今のまま軍事費拡大政策で行けば、そして、憲法も変えられてしまえば、米国等のために日本全土が戦場となり自衛隊員のみならず市民が犠牲になり、第2のウクライナになることが見えてきている。

三上講演の主題は、「私たちに戦争を止める力はあるのか？」である。このままいけばヒトラーのように、形や程度は違ったとしても数で進む政治がその方向に進めていく。首相が悪いでは済まされない。構造としては私たちが選んだのだから。これを止められるのは主権者である私たち国民なのだ。主権者意識と三上講演が示している真実にもっと敏感になり学んでいかねばならない。アウシュビッツはまさに今私たちの問題なのだ。この夏二つのことがピタッとつながった。

◆データセンター（DC）の課題

今や AI の時代、それは、私たちの仕事や生活に欠かせないし、又軍事産業においても大きな役割を担っている。AI にはたくさんのデータを保持しておくためにセンターは不可欠であるが、それを私たちの生活圈や保育・教育圏に置かれては困る。これは大きな歴史的質的变化なので、市の条例も変えなければならないはずである。国は軍事に熱心でいる間に何の規定も作っていない。これは国境を越えてどこに建ててもいいものらしく、世界はアメリカが沖縄を狙うように規制なしの日本を狙っている。AI 前の条例しかないのですぐ土地が手に入る。日本政府は、世界の中で見ると強い国どころか、何とお人好しの国なのだろうか。国民の命と生活を犠牲にしても大国の役に立つ国になろうとするとんでもなく弱い国になっている。私たちは、本気で子どもの今と将来を守る大人であるために学び合い考え合おう。

◆9月の歌 金田利子

- ・熊本の痛み我がこと地震国 人々守る政策をこそ
- ・9.1に在日差別に真向かおう 1人1人が我が身に替えて
- ・先月は原水禁に終（敗）戦日 核なき世界へ今月もまた
- ・残暑日はウォーミングアップで日が暮れそう それでもいいさと「じっと手を見る」

皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～③)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか？

お待ちしております！

① ほっとスペースさつき

毎週火曜と木曜 10:00～16:00 (移転先検討中)

② ほっとスペース第二きよか

毎月第1月曜 13:30～15:30 参加費 200 円 (移転先：小平市小川町 1-755-2-106) 問合せ：瀧口優 TEL：080-3450-6878

* 2023 年 7 月 10 日 (月)「ほっとスペース第二きよか」がスタートしました。

* 第一もしくは第二月曜に実施しています。(今後の予定は、10 月 5 日、11 月 2 日、12 月 7 日、1 月は休みです) 13 時 30 分～15 時 30 分です。

③ カフェなかじま

毎月第1水曜日(祝日の場合は第2水曜日) 13:30～15:30 中島地域センター 参加費 100 円

④「分かった会」小中無科学習教室

毎週木曜日 18:00～20:00 (小川公民館) 問合せ：奈良 勝行 (講師募集中！) TEL:090-4435-4306

9 月からは火曜日も中学校 3 年生用として開室しています。

イベントの予定

- ・ 10 月 17 日 (土) 10 時～ 白梅祭 (白梅学園大学) ～18 日 (日)
- ・ 10 月 18 日 (日) 10 時～ 小平市民祭り
- ・ 10 月 25 日 (日) 10 時～ おがわんフェスティバル (小川ホーム)
- ・ 10 月 26 日 (月) 11 時～ コミュニティカフェ世代間交流 (白梅)
- ・ 11 月 28 日 (土) 13 時～ 白梅子育て広場
- ・ 11 月 29 日 (日) 11 時～ だれでも食堂おがわん (小川ホーム)
- ・ 11 月 30 日 (月) 11 時～ コミュニティカフェ世代間交流 (白梅)
- ・ 12 月 05 日 (土) 10 時～ 防災を考える 1 日 (白梅学園大学)

西ネットの今後の予定

大学世話人会: 10 月 13 日 (火) 18 時～
地域世話人会: 11 月 10 日 (火) 18 時～
大学世話人会: 12 月 08 日 (火) 18 時～
地域懇談会: 12 月 15 日 (火) 18 時～

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・福丸由佳
2	足立隆子	吉村季織
3	大内智恵子・久保田進	金田利子・草野篤子
4	桜田 誠・細江卓朗	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行

西ネットの世話人を募集しています。瀧口まで連絡してください。(takiguchi-masaru@iaa.itkeeper.ne.jp)

お願い：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

投稿募集：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール：ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記：「小平西のきずな」も今回で 58 号を迎えます。西ネットのスタートから 14 年が経過していますが、今後も人と人をつなげることを柱に取り組みを続けたいと思います。(瀧口)。